



おだのぶなが 織田信長は、なぜキリスト教を保護したの



せんきょうし なんばんぶんか
宣教師がもたらす南蛮文化に興味をもったこと
や、ぶっきょう
や、仏教をにくんでいたことが理由らしいよ。

宣教師がもたらす南蛮文化に興味をもった

1543年に、種子島たねがしまに流れ着いたポルトガル人によって、日本に鉄砲てっぽうが伝えられ、1549年には、スペイン人宣教師ザビエルが、鹿児島に上陸しました。このころから、南蛮なんばん（スペイン・ポルトガルや、東南アジアの国々）の品々が、日本に入ってくるようになりました。織田信長は、ポルトガル人宣教師フロイスから、南蛮のことを聞き、南蛮の品々をおくられて、南蛮文化を取り入れたい、と思うようになりました。そして、フロイスらの求めに応じて、キリスト教を保護し、教会の建設に協力したりしました。しかし、信長自身は、キリスト教を信仰しんこうしなかったのです。つまり、信長は、南蛮文化の取り入れに、宣教師が大きな役割を果たしていることを認めていたから、キリスト教を保護して、宣教師を大切に扱っただけのようです。

ぶっきょうと 仏教徒集団に苦しめられたため、仏教をにくんだ

信長が京都に入ると、これに反発する武田たけだ・浅井あさい・朝倉あさくら・三好みよしなどの大名や、石山本願寺いしやまほんがんじ・比叡山延暦寺ひえいざんえんりやくじなどの仏教徒集団が、協力し合って、信長をたおそうとしました。信長は、これらの敵を、次々につぶしていきました。しかし、石山本願寺や、伊勢いせ（三重県）長島ながしまの一向一揆いっこういっきには、長い間苦しめられ、たくさんの家来が戦死しました。そのため、信長は、仏教をにくむようになりました。信長がキリスト教を保護したのは、仏教へのにくしみの裏返うらがえしではないか、ともいわれています。

信長がキリスト教を理解していたからではないのだよ。



ことばの意味 一向一揆 浄土真宗（一向宗）本願寺派の仏教徒の組織が起こした一揆。